

ディーセントワーク推進し

良きA型モデルを

中小企業家
同友会 初の全国フォーラム



講演する天野氏

中小企業家同友会が主催する障害者就労継続支援A型事業者全国フォーラムが6月25・26両日、神奈川県川崎市で約150人が参加し開かれた。同会がA型

障害者に最低賃金以上の報酬を払う雇用契約を結び、就労の機会を提供するA型事業は今年2月、全国団体も立ち上がった。現在38都道府県に支部ができると注目も大きい。2015年4月時点では、全国に2707事業所あり、4万8303人の利用者が勤務。5年前と比べると、事業者と利用者いずれも4倍以上に大きく増えている。事業主体は13年時点で、営利法人が43%を占め、社会福祉法人が

24%、NPO法人が23%。ただ、14年6月、A型の制度を悪用し利用者をお互な環境で働かせたり、収益の上がない仕事をさせたりする事業所のことや報道されるなど、批判も起きていた。フォーラムでは、天野典彦・ディーセントワールド代表理事が障害者雇用の現状などについて説明。その上でA型事業をめぐる批判について「ほかの事業者を批判したり排除したりするのはなく、良きA型モデルを提唱したい。自分たちが何

を理想とするかが問われていた」と述べた。具体的には、「働きがいのある人間らしい仕事」を意味するディーセントワークの視座を持つべきだと主張。同友会がこのほど作成したA型事業所の達成度評価表を活用してほしいと訴えた。また、分科会では、A型事業を実践する上での課題を共有するグループワークも行われた。参加者からは「いかに補助金を使わずに、事業だけで給与をまかなうかを考えている」「頑張って一般就労に移行させても事業所は全体として戦力ダウンになってしまう」となどの意見が出た。